

| 第 6 回 横浜市公園公民連携推進委員会 会議録 | |
|---------------------------------|--|
| 日 時 | 平成 31 年 3 月 7 日 (木) 午前 10 時 00 分～正午 |
| 開催場所 | 関内中央ビル 5 階特別会議室 |
| 出席者 | <p>椰野委員長 (中央大学研究開発機構 機構教授)</p> <p>坂井委員 (東京都市大学都市生活学部都市生活学科 教授)</p> <p>久富委員 ((一財)公園財団公園管理運営研究所 開発研究部長)</p> <p>松本委員 (高島中央公園愛護会 会長)</p> <p>吉田委員 (㈱日本経済研究所 執行役員 調査本部上席研究主幹)</p> |
| 欠席者 | なし |
| 開催形態 | 公開 (傍聴者なし) |
| 議 題 | <p>1 公園における公民連携に関する基本方針について</p> <p>・素案のまとめ</p> <p>2 その他</p> |
| 資料・ 特記事項 | <p>1 資料</p> <p>資料 1 : 公園における公民連携に関する基本方針 (素案) 第 II 部 抜粋</p> <p>資料 2 : 第 4 回委員会における意見の反映等について</p> <p>資料 3 : 公園における公民連携に関する基本方針 (素案) 概要版</p> <p>資料 4 : 公園における公民連携に関する基本方針 (素案) (冊子)</p> <p>2 特記事項</p> <p>素案による市民意見募集を実施の後、次回委員会を開催予定</p> |
| 議 事 | <p>1 公園における公民連携に関する基本方針について</p> <p>(事務局から第 4 回委員会後の修正・追加箇所等について説明)</p> <p>(椰野委員長)</p> <p>ただいまの説明にありましたように、委員の皆様の意見を丁寧に反映していただいたのではないかと思います。資料 1 などについて、お気づきの点をお願いします。</p> <p>(松本委員)</p> <p>資料 1 の P 1 で 3 点ほど指摘させていただきます。まず、「満足度の向上」は、評価の指標であって目的ではないと思います。では何が目的なのかと考えた時に、社会構造の変化に伴う多様なニーズを考慮した公園の実現ではないかと思います。</p> <p>2 点目は「都市の持続的な成長」という表現ですが、今は成長し続けるということはありません、現状維持という意味で「持続可能な成長」という表現が適当なのではないかということです。また「市民生活の質」と「クオリティ・オブ・ライフ」という言葉の言い換えが必要なのが気になりました。</p> <p>3 点目は、同じく「公園経営の目的」の部分の表現ですが、「公園から横浜のブランド力向上を目指す」というのがメインタイトルで、「市民のクオリティ・オブ・ライフの向上と都市の持続可能な成長の実現」はサブタイトルになると思いました。</p> <p>(事務局)</p> <p>1 点目について、確かに「満足度」は指標上の言葉で、利用者ニーズが多様化している</p> |

今日、その多様なニーズにきちんと対応して公園利用者の期待に応えていくという意味であると思っていますので、それが伝わるよう、表現を検討させてください。2点目の「都市の持続的な成長」については「持続可能な」が適当と思います。

(坂井委員)

私も同じ考えです。

(榑野委員長)

「クオリティ・オブ・ライフ」は横浜市の他の計画などで一般的に使われている言葉なのですか。横浜市全体として使われているならば、整合をとっていただければと思います。

(事務局)

先ほどの件ですが、本市の中期計画は「都市の持続的な成長」という表現を使っており、それに揃えました。ただ、本市が国から選定された「SDGs 未来都市」の発想は「持続可能」ですので、どちらかに揃えられればと思います。

(榑野委員長)

現代では「サステナブル」は一般的な言葉になっているので、「持続可能」でよいと思います。

(吉田委員)

まず1点目として、P1の表現に「維持・管理水準や施設整備を含め、計画から管理・運営まで」とありますが、「計画から管理・運営まで」の中に「整備」も入っているので、「施設整備を含め」というのは重複すると思います。

(榑野委員長)

「計画、整備、維持・管理、運営」という表現に改めていただきます。

(吉田委員)

あと、P2に「公園内という立地特性を生かした良質な施設整備が進めば」とありますが、「こういうものが公園内の立地特性」とイメージできる説明が入るとよいと思いました。

また、この基本方針は、これから連携していく公園愛護会や市民グループ、企業に向けてのメッセージであると理解していますが、その方々にとって自分たちがどう参加していくのか、あまり具体的ではないと思います。サウンディング調査をして民間事業者等から意見を聞き、市民にもアンケートをしている中で、どういう公園をどういう方法で連携していくかについては、基準となるものが述べられていないと思います。それはP6の施策1に書いてあるとおり、「今後検討していきます、仕組みを作っていきます」ということなのではないでしょうか。

それと関連し、P8の「(2) 施策の有機的な連動」という書き方ですが、これは庁内向けのタイトルに見えてしまいます。この基本方針を見ていただきたい公園愛護会や企業の方々の視点からすると、「どういうものを対象に、どういう基準で選んで、どのようにこの取組を進めていきます」ということだと思うので、このネーミングについては再検討してもよいのではないかと思います。

(事務局)

まずP2の「公園内という立地特性」ですが、緑が豊かであることや、都心部は景観も含めて評価をいただいているところなので、このような表現をしました。

(吉田委員)

それならば、「都心部でも緑豊かな」などと表現してもよいと思います。

(榑野委員長)

ご指摘のように、少し説明を加えるとよいですね。

(事務局)

公民連携の具体的な取組については、P 6の冒頭のとおり、大規模な公園は公募型事業での企業との連携が中心であり、身近な公園は公園愛護会が中心でその活動の中で企業との連携がある、というのが大枠のメッセージかと思っています。ご指摘のように、パークマネジメントプランを作り、その中でPark-PFI等のような事業をやるのか整理していきたいと思います。また、パークマネジメントプランを作った場合は、きちんとそのプランに沿って評価していこう、という意味で記載しました。

P 8の(2)のタイトルはご指摘の面はあると思います。基本方針は民間企業の方や公園愛護会の方もご覧になるものなので、表現の工夫をしたいと思います。総合的、包括的に進めていく姿勢は、行政もそうですし、民間企業や公園愛護会の方にも持っていただきたいと思います。

(榑野委員長)

そうですね。総合的、包括的に施策を進めていきます、ということですね。外に向けた表現に変えていただきたいと思います。内容は当然のことを言っていますので、それが分かりやすいようにしていただければよいと思います。

(久富委員)

P 3の「公民連携といえば『公』と『民』の連携を連想しますが」の部分ですが、市民の方の視点で読むと「連想するけど、それは違うのか」と思い、読み進んで「違ってないよね」と迷う気がします。公民連携が成熟してくると、「公公民」などと広がっていくことが言いたいのだと思うのですが、表現を工夫できるとよいと思いました。

(事務局)

ご指摘のように、「公と民だけでなく、民と民の連携も含めて」など、誤解のないように表現を工夫したいと思います。

(坂井委員)

今回書き加えられたP 8について、(2)は皆様のご指摘のとおりだと思います。(1)のP D C Aも当然なのですが、「取組の初期段階では」の「取組」は公募型事業の取組なのか、もっと大きな意味なのか、どういう意図で用いているのですか。

(事務局)

姿勢としては、全ての取組、公民連携の取組全体を指しています。大小含めて取組全体という意図での表現が不足していたかもしれません。

(坂井委員)

新しい事業に対するP D C Aはある程度常識ですが、それだけだと個別になってしまうので、パークマネジメントプラン、それこそプランとしてP D C Aサイクルを回すという大きなアイデアを書かれた方が基本方針にふさわしいと思います。今の表現は抽象的で、どこにでもあるものになっている印象があります。

(事務局)

階層的なP D C Aと、さらに段階ごとや時間の経過とともに陳腐化しないためのP D C Aを回すというように、2つのベクトルが必要であることを表現します。また、(2)を先にして、「総合的にやります」と示してから、次にP D C Aのことを述べた方がよいかもしれません。

(坂井委員)

そうですね。

(榑野委員長)

(2)が先にある方が分かりやすいかもしれません。

(坂井委員)

P 5の図について、「収益還元」の矢印どこに向かっているのか分かりません。資料4のP 19の図も「収益還元」の矢印の先をはっきりしていただきたいです。

もう一つは、担い手として公園愛護会、企業、市民グループ、国等がありますが、公園協議会が入っていません。図に入っていないということは位置づけにくいからだと思いますが、公園協議会の運用の仕方は、今後詰めておいていただきたいです。公園協議会とその周囲との関係性がまだイメージできないので、今後の課題であると思いました。

(榑野委員長)

資料4のP 19の図には記載されていませんが、ここでは表現しにくいし、「これだ」と定義することが難しいのだと思います。イメージとしては、担い手の全体が公園協議会であるようにも思います。

(事務局)

公園協議会の構成は「担い手」に記されている各主体であり、公園の状況や使い方、都心部と郊外部の場合でも異なります。これから公園協議会の設置にあたって、場合によってはまたお知恵をいただきたいと思います。

(榑野委員長)

今のご指摘に対して、何か表現はできないですかね。

(坂井委員)

国が作った制度を横浜市が先陣を切って生かしていただきたいという私からのエールですので、特に追記いただかなくてもよいと思います。

(榑野委員長)

資料1のP 4の「とりわけ、優れたノウハウやアイデアを持つ民間事業者等には」の文章を「収益の還元を通じた公園経営への貢献を求めています。」とつないで結ぶと、「優れた民間事業者には求めています」と読めてしまうので、どこかで文を切る方がよいかもしれません。収益が生まれるのは「優れたノウハウやアイデアを持つ民間事業者」に限らないですよ。また、「優れたノウハウやアイデアを持つ民間事業者」でも収益の還元までは難しい場合もありますよね。Park-PFIで特定公園施設を整備すると、そこで貢献しているのでそれ以上に還元するというのは難しいこともあります。当然として言えることと、場合によっては収益性の高い事業に対して求めることを整理した方がよいかもしれません。

(事務局)

サービス提供や効率性の向上と収益還元が並んでいますが、場合に依じた貢献を求めるなど、表現を修正します。

(松本委員)

P19の図の「公園の魅力アップ」の矢印ですが、各主体が公園の魅力アップに取り組むことが公民連携であり、それが満足度向上と効率性向上を実現するのだと思うので、「公園の魅力アップ」を満足度向上の矢印として描くのは適当でないと思います。

(坂井委員)

それと、この図の描き方では、満足度向上と効率性向上の2本柱のように見えてしまっています。

(事務局)

資料1のように満足度向上をメインとして表現したかったのですが、2本柱のようになってしまいました。表現を考えたいと思います。

(久富委員)

全体を通して内容はこれでよいと思いますが、このタイミングでなぜ基本方針を策定しているのか、Park-PFIなど新しい動きを始める時だからこそ、という意図が薄いように思います。写真などを入れて意図が分かるように工夫するとよいと思います。

また、P19の図中の「維持・管理の効率性の向上」という言葉も、公園経営としての意図があると思うので、表現を工夫するとよいと思います。

(吉田委員)

今後の公募型事業については、まず市がパークマネジメントプランを作り、「こういうことを民間と協力してやっていきたい」という位置付けをして、その中から「どういった事業を公募していこうか」と考える。これは「公」からの発案ですよね。あわせて、「民」からの発案も受ける「柔軟な発想を受け止め、実現に向け調整する窓口」があり、両方から公募が生まれてくると思います。

ではその次は、「事業化に際しての対話」、つまりサウンディング調査となり、その結果を踏まえて公募条件を整え、公募を開始していきます、ということでしょうか。

(棚野委員長)

取組全体のスケジュールが見えにくいです。公民連携を進めるというのははっきりしていますが、どの手順でやるのか、パークマネジメントプランができないとやらないのか、民間企業はいつ手を上げて提案していったのかなど、基本方針を見ても判断できないと思います。

(事務局)

公募型事業であれば、サウンディング調査をしてから、というのが普通のパターンになります。しかし、パークマネジメントプランを作る時には、民間事業者等の提案を入れるのか入れないのか、どのタイミングで入れるのかなど、地域との関係も踏まえて進める必要があるため、ひとつのパターンでは示しにくいと思っています。

また、実情として、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックの開催、相鉄線の東京都心部乗入れ、国際園芸博覧会の誘致など、市内で大きな動きがあります。その中で公園の役割をきちんと果たしていくことを考えていくべきであり、プライオリテ

ィを付けて対応していく必要があります。一方、身近な公園での可能性も検討していかなければならないので、どのあたりから始めていくか検討しているところです。

(吉田委員)

そうであれば、一步踏み込むことになるのでどうするかですが、民間企業からアイデアをもらったり、市がサウンディング調査をしたりとする場合に、「こういうものについて民間企業に提案をもらいたい」という公園リストがあれば、外部から見た時に分かりやすいと思います。

(坂井委員)

それに加えて、外部のタイミングで要求されるものに対して「パークマネジメントプランをまだ作っていないのでダメです」とはいかないので、パークマネジメントプランはないけれども取り組んでいくということになりますね。

(事務局)

そういう意味でも、まずは具体的に動いていくことが必要と思っています。また、過去に実施した、全ての公園を対象としたサウンディング調査に参加された方々とは、情報のやり取りをさせていただくこともしています。

(坂井委員)

応募したい側から見れば、「スピーディに対応します」など、分かりやすいように示すことが大事かと思います。

(榑野委員長)

そのとおりで、例えばP 8の最初で「総合的に進める」という部分でもよいのかもしれませんが、「まずパークマネジメントプランを策定していきます。あわせて必要に応じ、公民連携に柔軟に取り組みます」などの考え方を出示してもらえるとよいと思います。

(吉田委員)

そういう考えを入れていただけると、取り組みたい人に伝わりやすくなると思います。

(榑野委員長)

貴重なご意見をいただきました。入れるとしたら最後のところかと思います。

資料4も含めてご意見をいただきましたが、他にありますか。

(松本委員)

資料4のP19の図の「効率性の向上」ですが、多様な主体が公園の維持・管理に参加することで、結果的にそれが効率性の向上につながるという話だと思うので、効率性よりも多様な主体が参加するという点を前面に出す方がもっと分かりやすいと思いました。

(榑野委員長)

この図の一番下に「多様な主体間の連携による公園の魅力アップ」と書いてありますが、まさにこれなのでしょうね。他にありますか。

(久富委員)

先日公表されたPark-PFIの事例はどこかに入りますか。概要だけでもよいので。

(事務局)

入りたいと思います。資料4のP20「4. 公民連携の具体的取組」の空白部分にコラムで入れてもよいかもしれません。あるいは付録の部分など。

(榑野委員長)

言葉としては、資料4のP22「5. 取組の進め方と展開」で、「既にこのように進めていますが、具体的な内容は付録に」というやり方もあるかもしれません。

それでは、本日の議論を踏まえた修正の上、事務局に素案として確定していただこうと思います。これからの修正は委員長として責任を持って確認いたしますので、一任いただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

2 その他

(榑野委員長)

議題の「その他」について、お願いします。

(事務局)

今後のスケジュールを簡単にご説明します。素案は委員長と事務局で相談させていただき、3月中に確定させていきたいと思ひます。

4月からは市民意見募集に向け、ハガキでご意見をいただける体裁でリーフレットを作ります。実際に市民意見募集を実施するのは6月頃からを予定しています。1か月程度募集を行い、とりまとめた後の7～8月頃になると思ひますが、委員会を開催させていただき、素案から案になるところのご議論をお願いします。案になれば最終的な手続を経て確定し、9月頃の確定版公表を目指したいと思ひています。

また、里山ガーデンのPark-PFIについて、設置等予定者の選定をいただきありがとうございました。3月1日に公表し、業界紙ですが2紙ほど記事が載ったとのこと。今後、計画認定を行い、秋の大花壇公開に合わせてメイン施設のオープンを行いたいと思ひています。

さらに、ガーデンネックレス2019ですが、3月23日から5月6日の期間で開催します。里山ガーデンとみなとエリアがあり、特に今年はみなとエリアで「横浜ローズウィーク」という新しい取組があり、今年は開港160周年として地元も含めて盛り上がることを期待しています。このようなイベントも、共創フロントという市全体の公民連携窓口を使って花と緑に関するイベントやプロモーションの事業者を公募しており、少しずつ公民連携の取組も進んでいる状況です。

(榑野委員長)

本日の議論は終了しました。ありがとうございました。

(事務局)

約1年間にわたり、公民連携の基本方針とPark-PFI事業者の選定について、貴重なご議論をいただきました。基本方針は素案まで至ることができ、大変ありがたく感じています。皆様には引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。